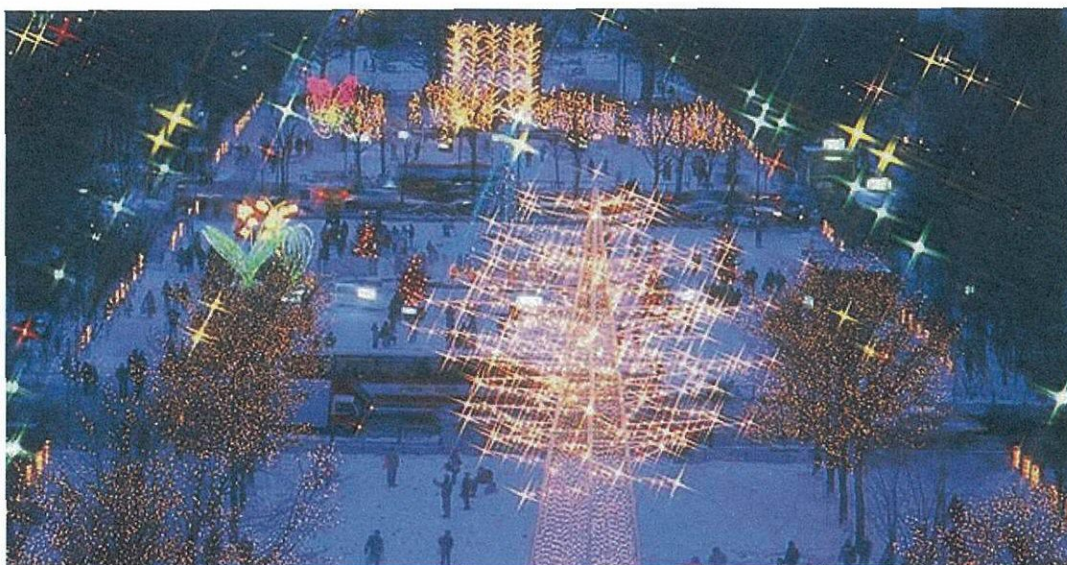


図書館だより

No. 67 December, 2005



目次

巻頭エッセイ 汝みすからを知れ	校長 前田三男	1
読書のすすめ 「人はいかに学ぶか」	制御情報工学科 中野 明	2
「クスリの飲み方 知っておくべきこと」	材料工学科 矢野正明	3
私の一冊	各学科学生6名	4
リレー連載<古典(化学工学)への誘い>	生物応用化学科 東内秀機	6
平成17年度(前期)図書館利用状況		8
Information 編集後記		

Kurume National College of Technology library
久留米工業高等専門学校図書館

いと思う場合、自分が徳に優れた者と思う場合の三つをあげています。特にた迷惑なのは最後の場合で、「権力がある人の場合には憎むべき醜悪な者となり、そうでない場合には笑うべき滑稽な者となる」そうですから、注意が必要です。

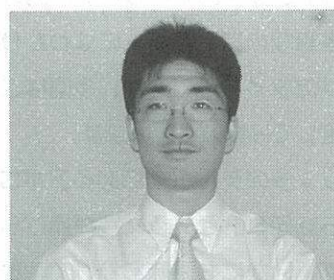
前の「挨拶文」に書いたとおり、私は学生諸君が自分の長所を見だし、それを延ばす努力をすることは、非常に大切なことだと思っています。しかし「自分自身を正確に知る」のは、それほどたやすいことではありません。自分自身で気がつかない欠点や長所を周りの人の方

がよく知っているのは、しばしばあることです。「自分とは何だろう」と殻にこもって考え続けても、「自分」は見えてきません。「自己」は孤立したのではなく、外部との関係で決まるものだからです。

デカルトという人は「自己」と「外界の認識」の問題をはじめ徹底的に考察した哲学者でした。デカルト以降の近代哲学は、結局のところ「自分とは何か」という問題の探究に終始しているという見方もできるでしょう。そういう意味でも、「自己の探究」は人間一生の課題なのです。

特集 読書のすすめ

「人はいかに学ぶか」



制御情報工学科 中野 明

学生の皆さんは、「学ぶ」とか「勉強する」という言葉を聞いて、暗いイメージを連想したりはしませんか？ 高校生のころの私だったら確実にイエスと答えています。そんな勉強ざらだった私なのですが、今は、人間の学習活動を支援するソフトウェア開発に関する分野にて日々「勉強」しています。今回紹介する本は、私が非常に興味をもっている分野の一つである認知科学、心理学からのものです。

宿題やレポートや試験といった「勉強」の真っ只中にいる皆さんにとっては、信じられないことかも知れませんが、学校で学ぶことは、人生のなかではほんのわずかでしかありません。学校のように学びを強要される環境下になくとも、必要に迫られなくとも、実際、私たちは、ごくごく自然に学ぶという活動を継続的に行っています。本書の前半部分では、この日常的な学びに目を向ける中で、「誰しものが、無意識のうちに、優秀な学び手として振舞う可能性を持っている」ということをメッセージとして暗示するために、日常生活において行われている様々な「学び」について説明したり、実験的な検証が示されたりしています。そして後半は、このメッセージ

を客観的に受け入れた際に、私たちにどんな行動がとれるのかということを示しています。結論としては、知を求める欲求に「優秀な学び手として振舞う」きっかけがあること、そして、「学ぶ」際には、物事に対して積極的に疑問を持つ姿勢を大切にすること、「学ぶ」機会を提供する際には、知そのものよりも、知を探求する課程に配慮することを提案しています。

この本からは、人がいかにして学び成長していくかという哲学的ともいえるテーマに対して、これまでに多くの心理学、認知科学の学者が挑み、断片的ではあるものの報告を続けていることが良くわかります。すごいなぁと素直に驚かされます。結論については、確かに、ありきたりで、不可能に近い綺麗ごとだと感じる人もいるかもしれません。ですが、今まで特に意識していなかったことに対する考え方に触れ、文章を通して擬似的な体験をし、自身の日常に対して内省と思慮を巡らすきっかけとなることこそ、書物の重要な役割だと思います。そういった意味で、この本は私を十分楽しませてくれた、すばらしい本であると思います。

実はこの本の著者の一人である波多野誼余夫先生、

私が大学4年生時に所属したゼミナールで、最初に読んだ論文の著者なのです。その論文の読解には大変苦労したのを覚えています。学校卒業後、本屋を散策中に、偶然、この本と出会いました。この出会いには、数奇な巡り合

わせを感じており、本コーナーの紹介書籍とさせていただきます。最後になりましたが、この冬、皆さんに良い本との出会いがあることを祈っております。

特集 読書のすすめ

「クスリの飲み方

知っておくべきこと」



材料工学科 矢野 正明

最近ではめっきり寒くなり、風邪薬のお世話になる方も多と思います。気軽に薬店で購入できる市販薬は、初期風邪の対処法として一般的ではないかと思えます。しかし、クスリには効能だけでなく、副作用等のデメリットも存在します。特に注意すべき点は、子供への投薬です。大人のクスリの中には子供に対して致命的なダメージを与えるものがあります。また、多く飲めば早く良くなると勘違いしている方もまだにいるようです。そんな、クスリの危険性や正しい飲み方などを改めて理解するのに最適な一冊だと思えます。

最近のストレスの多い社会においては、「頭痛薬」を手放せない方も多いのではないでしょうか。私も「頭痛薬」には、よくお世話になっています。頭痛薬の有効成分として「アセトアミノフェン」「イブプロフェン」「アスピリン」「サリチル酸アミド」「エテンザミド」のいずれかを含むものが市販薬の大半を占めています。お手元の頭痛薬の外箱や使用上の注意には必ず記載されていますので、確認していただくと良いかと思えます。この中で子供に投薬できるのは「アセトアミノフェン」のみです。その他の成分の子供への投薬は危険であり、決して飲ませてはいけません。大人に比べて体重が少ない分、量を減らせばよいと勘違いしている親もいるようですが、生まれだての赤ちゃんでは体重の約80%が水分で、6ヶ月で約60%であるのに対し、大人では約50～55%と水分量だけでも大きく違います。また、クスリ

を代謝するのに必要な酵素が少ないこともあり、単純な体重換算では必要量を定めるのが非常に難しくなっています。そのため、子供（特に乳児）の病気の際には、小児科医にクスリを処方してもらった方が良いでしょう。

さて、皆さんはどのような基準で風邪薬を選んでいるのでしょうか？値段の高いクスリがよく効くと思っただけですか？CM等で聞いたことのある商品ですか？長年売られている商品でしょうか？風邪といっても症状は様々で、以前効いた薬を飲んでも効かない場合も多々ありますよね。そのため、私が風邪薬を買う場合には以前効いたクスリと、試したことのないクスリの最低2種類を買うようにしています。風邪薬には、「のどの痛み」「鼻水」など、特定の症状に最適との記載のあるものもありますが、基本的に市販薬は「総合感冒薬」つまり、風邪の諸症状に効くものであり、症状によっては不必要な成分を含んでいます。それに対して、処方薬はある特定の症状にのみ効く成分しか含まれていない場合がほとんどで、より無駄のないクスリであるといえます。そのために、処方薬は一度に飲む種類が多くなるのです。

風邪薬の成分は「解熱鎮痛剤」「抗ヒスタミン剤」「血管収縮剤」「咳止め剤」の4種類に大きく分類できます。「解熱鎮痛剤」は、頭痛薬の主成分と基本的に同じです。「抗ヒスタミン剤」であるマレイン酸クロルフェラミンやフェニルプロパノールアミンが充血を

抑えることにより鼻炎の改善につながるのです。「咳止め剤」の塩酸メチルエフェドリンは、気管支を拡張させて咳を鎮め、グアイフェネシンが痰を切る作用を示します。風邪薬が効かない場合は、これらの成分が異なるものに代えるのも一案だと思います。これらについても、クスリの外箱などに記載されていますので、お手元の市販薬を調べるのもよいでしょう。

下痢止め、解熱剤の使用にも注意が必要です。「下痢」とは、体内の有害物を早期に体外へ放出することを目的に、身体が反応している場合があります、下手に下痢を止めると、症状がいつまでも改善しない場合があります。また、「発熱」も体温を上げて、病原菌やウィルス等を撃退することに役立っています。そのため、やみくもに体温を下げることは、かえって治癒に時間がかかる場合

があります。もちろん、あまりの高熱で「ぐったり」している場合には、解熱剤を使用すべきでしょう。子供の場合は、発熱していても元気なら解熱剤は不要との考えもあるようです。

最近、サプリメントでビタミン、ミネラルを摂取する人も増えてきたようですが、これについても注意が必要です。クスリの場合と同様、過剰摂取には副作用が伴うものがあるのです。

日頃気軽に摂取しているクスリにも危険性があることが理解できたかと思います。注意して使えば得るのが大きいですが、場合によっては、有害になることもあり、使用に際しては細心の注意が必要なのです。

*本書について

橋口亮、橋口玲子著 河出書房新社



エーリッヒ・ショイルマン 編集 岡崎 照男 訳
絵本パパラギーはじめて文明をみた南の
島の酋長ツイアビが話したこと—

立風書房

「パパラギ」とは、サモアの言葉で「白人」などの意味を持った言葉です。この話はサモアの酋長ツイアビが1915年頃、ヨーロッパを旅してまわり、初めて体験した文明の印象を島の人々に話したものがまとめてあります。私たちにとって重要な意味をもつもの—技術・教養・時間・仕事・お金など—もサモアで大自然と共にゆっくりと暮らしていた人々にとっては、全く何の価値もないものでした。同じ人間なのに私たち日本人も毎日をせわしなく生きています。時間に追われ、労働に追われ、何もかもから追われて生きているようなこの時代、サモアの人々のように生きてみたいと思いました。

(生物応用化学科3年 中村 知世)

川上 信也 著

坊がつる山小屋日記

海鳥社

この本との出会いは、ある雨の日、友達と行った本屋でのことだった。元々山好きだった私は、登山ガイドブック等のあるコーナーによく行くのだが、そこで目にとまったのがこの一冊、面白半分で内容も見らずに購入した。その後、バラバラと中身に目を通し、適当なページの内容を読むと、白人のでかいパンツを神として祭り上げたという文章。何だこりゃと、最初から読む内にすっかりはまってしまった。

この本はくじゅう連山中にある法華院温泉で働きながら、インターネットを通して書き上げた著者の日記である。美しい写真、分かりやすいイラスト、軽い感じの文章でくじゅうの魅力について語られている。

(機械・電気システム工学専攻1年 池上 智昭)

ばるぼら 著

教科書には載らない

ニッポンのインターネットの歴史教科書

翔泳社

「文化」は「歴史」が作る。この意見は結構正鵠を射っているらしく、世界でこの言葉が当てはまらない文化は無いように感じます。また、それは現実世界にとどまらず、インターネット上でも言えることなのです。今、皆さんが何気なく利用しているインターネット、そこに広がる文化をまとめ上げたのがこの本です。日本のインターネットの原点に始まり、生まれては消えていった様々なブーム、さらには現在話題になっている P2 PX ブログ、巨大掲示板群などがどのような過程を経て発展してきたかが克明に記されています。ますます変化していくインターネットの文化、その歴史をあなたの手で紐解いてみませんか？

(電気電子工学科5年 原 昂史)

リリー・フランキー 著

東京タワー

～オカンとボクと、時々、オトン～

扶桑社

「恋はするものじゃなく、おちるものだ」

2人の少年透と耕二、そして年上の恋人詩史と喜美子。“不倫”という関係の中で展開する2つの愛の形を江國香織が描く…というのは冗談で、リリーさんの東京タワーです。内容としては、九州で成長した中川少年が東京へ出て現在のリリーさんとなる、著者自身の半生を綴った私小説です。幼少の頃からオトンとは別居し、オカンに女手一つで育てられたわけですが、苦しい環境の中で見せるオカンの深い愛情や、どんな時も太陽のように明るい姿に強く心を打たれます。温かい気持ちになれますよ。プレゼントにも最適です。読む時は、かたわらにティッシュの準備を忘れずに。

(制御情報工学科4年 服部 誠一)

乙一 著

小生物語

幻冬社

初めに書いておきますが、これは小説、エッセイ等ではなく、Web上に掲載された乙一氏の日記を本にまとめた物です。知っている方もいると思いますが、乙一氏は久留米高専卒業生であり、現在小説を書いている方です。ちなみにこの日記本は普通の日記の中に非現実的な描写が織り交ぜていて読む人を飽きさせない形となっています。私がこの本を読んでみて、日常の現実、それと融合する非現実の描写が日記と違い一つの物語のような錯覚に感じました。普通の本とは一味違った、こんな本を読んでみることも自分が思うにいいのではないのでしょうか？

(材料工学科5年 武藤 昌治)

カレル・ヴァン・ウォルフレン 著

ウォルフレン教授のやさしい日本経済学

ダイヤモンド社

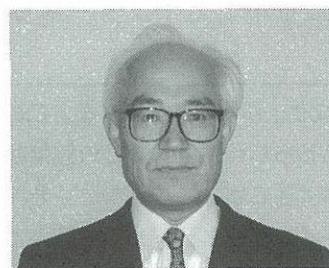
この本では、日本のエコノミスト、日本を分析対象にしている海外のエコノミストたちが、日本経済の仕組みを本当に理解していないことを指摘しています。日本経済の仕組みとして、日本は資本主義ではなく新重商主義であるということ、銀行の在り方が、欧州の銀行の在り方と根本的にちがっていること、政治を行っているのは政治家でなく官僚であるということだと述べています。もちろんこの本にでていることがすべて正解ではないと思いますが、はっきり分かるのはニュースをそのまま理解してはいけないということです。いろいろな人の意見をバックグラウンドとしてできる限り正確に読めるように努力しなければいけないと思いました。また、この本は日本経済の仕組みをわかりやすく述べているので、とても理解しやすい本でした。一番言いたいことは、改革は必要だが、日本の仕組みを本当に理解したうえでの改革がなされなければ、日本を誤った方向に導いてしまうということです。一人一人が政治・経済に対してもっと関心を持ち、知識を吸収して、行政に意見を言うことが良い日本にする第一歩だと思います。経済の知識は、これからの生活に必ず必要だと思います。是非読んでみて下さい。

(機械工学科5年 松田悠太郎)

リレー連載 —〈古典（化学工学）への誘い〉—

例題演習化学工学

光武 量 著



生物応用化学科 東内 秀機

著者の光武先生は、本校前身の久留米工業短大と久留米高専工業化学科で、化学工学と化学工学実験などを担当されていました。先生は、昭和41年3月に福岡産業大学教授として本校を去られました。昭和41年(1966)は、第一期生の卒業年でもあります。先生は、九州大学工学部応用化学科を昭和6年に卒業されています。その後、満州などの化学工場で技術者として活躍され、昭和34年に久留米工業短大に着任されています。小生は、本校に昭和40年に採用されました。短期ではありましたが学生実験の手伝いなどで、おつき合いしていただいたことが、記憶にのこっております。当時の先生は、ふろしき包みと自転車を愛用されていたとおもいます。数年遡りますが高校時代の歴史の先生で、当時無名の吉野ヶ里遺跡をひとりで調査されていた先生(七田先生)も、ふろしき包みと自転車を愛用されていました。著名な先生は、ふろしき包みと自転車が、好きだったような気がします。光武先生は、かざりけがなく親しみやすい先生でした。学生にもたいへん人気がありました。本書は、昭和39年6月に産業図書より出版されています。この年は、東京オリンピックが開かれています。化学工学の専門書として有名な“化学機械の理論と計算”も同社より出版されています。本書は320数ページで活字が小さいのでかなりのボリュームがあります。完成には、数年間を要してあるとおもいます。専門書は、たいいてい数名で書かれたものがほとんどです。当時は電卓、ワープロなどが無い時代に、しかも本書をひとりで書き上げられております。昭和30年後半は私の大学時代ですが、実験レポートの数値計算では、大変な労力をついやしていました。指数対数の計算は対数表(丸善の7桁対数表)と計算尺を使っていました。四則演算は筆算がほとんど

でした。研究室には、タイガーの手回し計算機が一台あったとおもいます。今では計算尺や手回し計算機はどこにかくれたかも分かりません。40年あまり経過した現在、先生の並外れた努力が想像できます。本書が出版(1964)されたころは、ものの少ないころで専門書も数少ない時代でした。化学工学の入門書としてよく利用されていたと思います。第一期生の講義テキストにも、使用されていました。本書のはじめには、当時の化学工学協会長をされた八田先生の推薦があります。内容の一部ですが、次のようです。著者の光武先生は、化学工場で十数年間勤務されたのち、戦後は教職に転じられ、産学両面の知識と経験が豊富である。例題演習化学工学という表題の趣旨に従い、単位操作の装置や操作に関する数多くの数値計算例が、分かりやすく要約されている。化学工学の理論式や実験式を理解するためには、数値データを代入して計算することが大切である。著者の自序には、学生や技術者の備忘書として役立つことを目標とした。また、独学者の自習書にも適するように心がけたことが、強調されています。本書では、化学工場の技術者で必要とする単位操作の基礎知識と例題演習の解説が、全12章にまとめられています。自序で述べてあるように、独学できるように多数の例題と演習問題を取り上げ、ヒントと詳しい説明があります。図表も数多く引用されています。初心者の私にとっては、たいへん分かりやすい本でした。化学工学の参考書として、先生が本校を去られた後も、いろいろと本書をよく利用していました。当時の高専初期ころも、実験の時間は多く取っており、実験室はよく整備されていたと思います。先生が設計された化学工学実験室も、よく整えられていました。蒸留関係では、自分で設計された回分精留塔が設置されていました。充填塔の高さは4m位あり、塔頂までは鉄骨

の階段を上っていました。充填塔は、5、6段の組み立て式で、泡鐘塔の実験もできるように作られていました。流動伝熱関係では、圧損測定、オリフィス流量測定、伝熱測定の装置が、2インチ位の鋼管で壁横に組み込んでありました。実験室の一角には10平方メートル位の粉碎室があり、10リットル以上の磁性のボールミルを回転できるものでした。タイラーふるい用の振とう機も

備えてありました。これらの装置からも、先生の化学工学への熱意を知ることができます。この実験室は、金属工学科への渡り廊下に面した所にありましたが、老朽化と改変のため、今では見ることはできません。本書は、久留米高専初期の本校先生により書かれていることから紹介しました。(図書館の書庫に数冊保管されているそうです。)



閲覧室にDVDプレイヤー2台を設置しましたので、1月10日から利用できます。
現在保管しているDVDは次のとおりです。

- 1 プロジェクトX 国産コンピューターゼロからの大逆転
- 2 プロジェクトX 運命のZ計画
- 3 プロジェクトX わが友へ病床からのキックオフ
- 4 プロジェクトX 制覇せよ世界最高峰レース
- 5 プロジェクトX 桜ロード巨木輸送作戦
- 6 プロジェクトX 男たちの復活戦デジタルカメラに賭ける
- 7 プロジェクトX 幸せの鳥トキ執念の誕生
- 8 プロジェクトX 家電元年最強営業マン立つ
- 9 プロジェクトX 救命救急ER誕生
- 10 プロジェクトX 料理人たち炎の東京オリンピック
- 11 DVD アイ・mam・サム
- 12 DVD アルマゲドン
- 13 DVD タイタンズを忘れない
- 14 DVD ズー
- 15 DVD ディープ・ブルー
- 16 DVD WATARIDORI
- 17 DVD となりのトトロ
- 18 DVD 耳をすませば
- 19 DVD 風の谷のナウシカ
- 20 DVD もののけ姫
- 21 DVD 天空の城ラピュタ
- 22 DVD おもいでぼろぼろ
- 23 DVD 千と千尋の神隠し

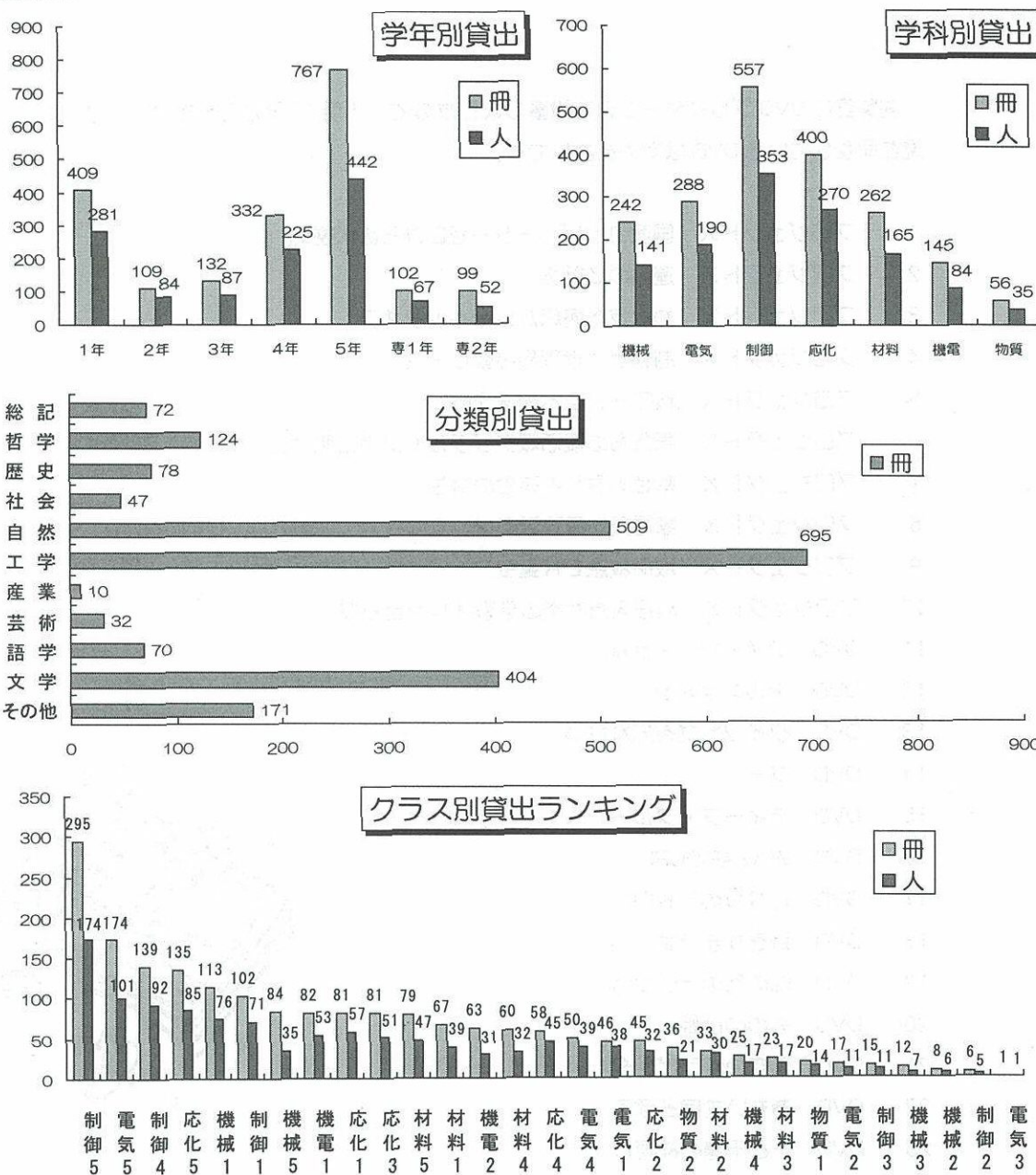


平成17年度前期 図書館利用状況

◆開館日数及び入館者数

月	開館日数	入館者数				一般利用者数 (内数)	一日平均入館者数 (四捨五入)
		平日		土曜日	合計		
		時間内	時間外				
4	24	2,819	346	93	3,258	17	136
5	23	3,367	692	128	4,187	28	182
6	26	3,631	665	235	4,531	34	174
7	23	2,635	267	79	2,981	24	130
8	23	1,744	0	0	1,744	27	76
9	23	4,153	666	257	5,076	40	221
合計	142	18,349	2,636	792	21,777	170	153

◆図書貸出状況



Information

下記のとおりお知らせいたします。開館時間の変更及び臨時閉館にはご注意ください。

特別（長期）貸出について

冬季休業中の特別（長期）貸出を下記のとおり行います。

貸出期間：12月16日（金）から
12月27日（火）まで

返却期限：1月10日（火）

貸出冊数：5冊以内

一般利用者及び教職員は従来とおりです。

開館時間の変更及び休館日について

冬季休業及び年末年始は下記のとおりです。

12月22日（木）9時～20時	1月 5日（水）9時～17時
23日（金）休館	1月 6日（木）9時～17時
24日（土）9時～17時	1月7・8・9日 休館
25日（日）休館	1月10日（水）9時～20時
26日（月）9時～17時	
27日（火）9時～17時	
12月28日（水）から1月4日（水）まで休館	

卒業・修了予定者への貸出等について

今年度卒業・修了予定者への貸出は下記のとおりです。

貸 出：2月28日（火）まで

返 却：3月 7日（火）まで

図書返却日は厳守 飲食物の持込禁止
携帯電話は使用禁止 騒がしい行為・会話は禁止

《編集後記》

私が係わって、2号目の図書館だよりとなりました。いかがでしたでしょうか。前号に引き続き、前田校長の巻頭エッセイから始まり、先生方や学生の皆さんの心に残る本を紹介して頂きました。皆さんにもこのような、本との素晴らしい出会いがあるよう、私ども図書館スタッフはこれからもつとめていきたいと思っております。ぜひ、図書館やこの図書館だよりに対するご意見をお寄せ下さい。

（図書主幹 山崎有司）

発行日：平成17年12月19日

発行・編集：久留米工業高等専門学校図書館 Tel：0942-35-9306 Fax：0942-35-9307

〒830-8555 久留米市小森野一丁目1番1号 E-mail：L-staff.GAD@ON.Kurume-nct.ac.jp